独立行政法人地域医療機能推進機構
人吉医療センター　広報誌

syou 翔

7
2016 July
No.527

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理　念　135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

- **患者中心医療**　患者の人権と意思を尊重します
- **患者診療3本柱**　がん･救急･予防医療を中心に医療機能の充実を図ります
- **完結型医療**　地域の医療機関との連携を行い安心できる医療の展開を行います
- **社会貢献**　災害医療派遣･医療情報公開･医療ボランティアの活動を行います
- **医療人育成**　医療に携わる喜びが持てる医療人の育成を行います

認知症ケアチーム 活動紹介

認知症対応力向上研修　風景

認知症ディケア風景

当院では、平成23年11月から認知症ケアチームを立ち上げ、月1回のカンファレンスと病棟ラウンド等の活動を行っています。当院独自の認知症ケアマニュアルを作成、活用することで、少しずつ院内における認知症ケアの質の向上が図れてきています。現在では､一部の病棟において、毎週月曜日に認知症デイケアを試験的に導入しています。急性期病院において、認知症を患う方は、入院による環境の変化から混乱を起こしやすい状況があります。そこで、デイケアを通して楽しいいひと時を過ごしてもらうことで、生活のリズムを調整する目的で行っています。参加される方の中には、これまでにない笑顔を見せてくれたり、隠れた才能を発揮し､素晴らしい作品を作り上げたりされ、驚かされることがあります。今後、さらに内容を工夫しながら、効果のあるデイケアを開催していきたいと考えています。また、今年度の診療報酬改定により認知症ケアチーム加算が算定できるようになりました｡その条件として｢全職員を対象に､定期的に研修を行う｣という内容があります。熊本県では、平成26年度より一般病院での認知症対応能力向上のための研修として、自施設での講義を行うことができる看護師の養成を開始しました。当院の認知症ケアチームのコアナースでもある新村 亜耶ナースが昨年オレンジナースの認定を受けました。今年度は､新村ナースが中心となり、認知症対応力向上研修を行っていく予定です。7月11日に全職員を対象とした研修の第1回目を行い、多くの方に参加していただきました。次回は10月に開催予定です。今回参加できなかった方は、是非ご参加をお願いいたします。

今後も認知症ケアチームを中心に認知症の患者様に対するケアの質の向上が図れるよう努めていきたいと思います。

【現在の主な活動内容】

・カンファレンス	月1回
・病棟ラウンド	月2回
・院内ディケア	毎週月曜日

【チーム構成】

医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション科、MSW、臨床心理士等の多職種連携のチーム

認知症看護認定看護師　山口　幸恵

閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行の治験参加者募集について

この度、新たに治験を受託しました。

閉塞性動脈硬化症（ASO）は、動脈硬化により主に脂肪からなる粥状物質が動脈壁内膜に沈着し、動脈の内腔が狭くなり循環障害をきたす疾患です。四肢の主幹動脈、特に腸骨動脈、大腿動脈において、徐々に動脈硬化が進行し、末梢動脈の狭窄・閉塞により循環障害の症状（間歇性跛行、下肢疼痛、冷感及びしびれ感など）が発現します。間歇性跛行は、しばらく歩くと下肢のだるさや痛みなどから歩けなくなり、しばらく休むと再び歩けるようになる症状です。これらの症状は歩行運動による筋肉酸素需要の増大に供給が追いつかないために生じる、いわば「足の狭心症」であり、ASO 患者の 70% ～ 80% が間歇性跛行を主訴とすると言われています。

今回の治験について

治験の対象は重症でない（Fontaine 分類 II 度以下）20 歳以上の方です。治験薬は 1 日 2 回の飲み薬で、間歇性跛行症状を改善することが期待されます。

ASO に伴う間歇性跛行症状を有している方が対象で、治験に参加頂く期間は最長 37 週間です。

治験（承認申請試験）ですので、専門スタッフ（臨床研究コーディネーター：CRC）が丁寧に説明しますので、お気軽にお尋ねください。

治験責任医師　副院長（外科）下川 恭弘
治験分担医師　循環器内科部長　中村 伸一　他

問い合わせ窓口　治験センター　CRC　岩崎ユリ
電話：０９６６－２２－２１９１（平日 8：30～17：00）

人吉市多機能型緊急総合対策応援事業協定　調印式

平成 28 年 4 月熊本地震の発生によって人吉市の公共施設が機能不全に陥り、旧人吉看護専門学校を、公共的機能を担う緊急の多機能施設として使用することとなり、6 月 30 日（木）に人吉市役所仮本庁舎（人吉市カルチャーパレス内）の市長室で協定を締結する調印式が執り行われました。

旧人吉看護専門学校は、主に保健センター、勤労青少年ホーム、旧老人趣味の家としての機能の他、災害対策川南支部・避難所や救援物資等の備蓄倉庫として利用されるとのことです。

調印式後の記者会見で、松岡市長は「市では熊本地震によって庁舎の機能移転をした。保健センターと勤労青少年ホームについても、より安全度を増した施設での市民サービスを提供したいということで人吉医療センターに相談し、旧人吉看護専門学校を貸していただくことになった。今後とも指導いただきながら、市民の健康、安全を守っていきたい」。木村院長は「一番身近な市役所が機能移転を余儀なくされ、私たちとしても何かのお役に立ちたいと思っていた。今後、さらに行政の皆さんと手を取り合ってやっていきたい」とそれぞれ述べられました。

人吉医療センターは、これからも地域とともに、人吉・球磨の中核医療機関としてその役割を果たしていく所存です。

看護学校正面玄関

記者会見

登録医　満足度　アンケートのお礼

このたび、平成 28 年 5 月に登録医の先生方に「病病・病診連携に関するアンケート」を実施いたしました。ご多用中にも関わらず、182 施設中 135 施設の登録医の先生方にご協力を頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回のアンケートでは、登録医の先生方から、貴重なご意見を多数いただき、当院で改善すべき点などに気付かされました。

アンケートは 1. 外来予約、2. 当院からの情報発信、3. がん地域連携パス、4. 患者報告、連携の 4 つの項目にわけて実施しました。

紹介患者の報告については、8-9 割の登録医の先生方に満足いただいておりましたが、一部で返答が遅いというご意見がございましたので、よりスムーズな報告ができる体制作りを心がけて行きたいと思います。

今回いただきました御意見を参考に職員一同より一層充実した医療連携に努めていく所存でございます。今後とも、登録医の先生方のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

医療福祉連携室

救急カンファレンスおよび消防機関におけるドクターヘリ症例検討会

6月15日、消防本部におけるドクターヘリ症例検討会が実施されました。

これは年に1度、熊本赤十字病院のドクターヘリフライトスタッフが県内消防本部を1カ所ずつ訪問し、ヘリ症例の検討会を実施し、その改善点等のフィードバックを行い、ヘリの有効活用を目指すという取り組みです。今年で4回目となる今回も、熊本赤十字病院から奥本克己医師をはじめフライトスタッフを迎え、人吉医療センタースタッフ、管内医療機関及び近隣消防本部からも多くの参加者が集まりました。検討会を進めていくなかで、特に医療機関から現場が遠方の場合にいかに早くヘリ要請をし、早期医療介入できるかが傷病者の生死を分けるポイントだとあらためて実感しました。オーバートリアージになっても1秒でも早い医療介入を目指すべきであり、ここ人吉下球磨管内は県内でも特に時間を要する地域であるため、覚知要請が重要であると強く述べられていました。また、奥本医師の講話の中で熊本型ヘリ救急搬送体制のメリットや要請窓口の一本化などの説明もあり再確認できました。さらに、今後の検討課題として無線、携帯電話の不感地域において、フライトドクターから特定行為の指示要請ができないかという問題を、現在熊本県メディカルコントロール協議会で検討中であるとの話もあり、今後更なる熊本型ヘリ救急搬送体制の充実強化の在り方について、とても有意義な検討会となりました。私たちは熊本型ヘリ救急搬送体制という恵まれた環境のなかで活動を行っており、この体制を最大限に活用し、人吉球磨地区の救命率向上に努めていきます。

奥本　克己先生

人吉下球磨消防組合　橋本　翔大

看取りについて

平成28年6月26日（日）、特別養護老人ホーム　鐘ケ丘ホーム（あさぎり町）において、入居者家族とケアに携わるスタッフに対して、当院看護師長　上野明美が「看取りについて」の講演を致しました。

講演後の感想を頂きましたので、下に掲載させて頂きます。

上野 明美 看護師長

●私も一昨年九月に、母を入院先の病院で亡くしました。ほとんど毎日のように、三食の食事のうち一食は手伝いに通っていました。最期の日、後30分待っていてくれれば、息を引き取る時を一緒に迎えられたのに、待っていてくれず旅立ちました。それが今も悔いとして残っています。今日の講演そのものが本当にそのままあてはまり、母の最期の前に聞いていれば、悔いが今頃は消えていたのではと残念です。生前感謝の言葉を言い残してくれた言葉を糧に、いい意味での別離をしたいです。講演の最後は涙が止まりませんでした。（60代女性）

●今は高齢化に伴い、経済的な面でも家族で看取ることが大切である。看取りの「看」という字は、手と目でつかむという言葉の意味から大切なこと、患者さんの心を活き活きさせるものは優しさと温もりであること知った。肉親の死と考え合わせ涙が出て仕方がなかったと他の参加者の方も言われていた。私も、もう少し早く看取りのことを知りたかったと思った。マザーテレサの「人生、たとえ99%が不幸だとしても、最後の1%が幸せならば、その人の人生は幸せなものに変わる」という言葉が心に残った。（70代女性）

●看取りについて、20数年前に父の看取りをした時に、後悔したことがたくさんありました。今、認知症で同じ話を繰り返す母に向き合った時、話の途中で「さっきも聞いたよ」と言ってしまったり・・。優しい言葉をかけることを忘れていた自分に気付かされました。これから何年も付き合うことになるかもしれませんが、母が最期を迎える時に、「幸せだった。」と思ってくれるように・・・。そう思える素敵な講演会でした。ありがとうございました。（50代女性）

●私は聴力が弱いので、講演はどうなるものかと思っていましたが、資料がきちっとしていて55のこまにまとめてあり助かりました。高齢者の死について、家族の具体的ケアの対応を教えていただき、非常に貴重な学習をさせて頂きました。この資料は貴重なものとして、繰り返し読み、家族のなかで承知させたいと思います。介護施設のおかげで、私も生かされているということをいつも感謝しております。（80代男性）

今年度の地域連携緩和ケア研修会を下記の日程で開催します。是非ご参加ください。
お問い合わせは8階 緩和ケア病棟　研修担当者へ（代表 Tel：0966-22-2191）

平成28年度地域連携緩和ケア研修会　　今年度の研修会予定

	年月日	テーマ	講 師
1回	7月22日（金）	緩和ケアへの心理的支援	臨床心理士　鶴田 真奈美
2回	8月22日（月）	緩和医療の概論	西村 卓祐 先生
3回	9月20日（火）	症状マネジメント①呼吸困難	主任看護師　田安 厚美
4回	10月18日（火）	症状マネジメント②疼痛	副師長　石牟禮 亜香
5回	11月14日（月）	バンテージ　講義	副師長　久保田 良美
6回	12月19日（月）	バンテージ　実技	副師長　久保田 良美
7回	平成29年1月16日（月）	エンゼルメーク（ケア）	師　長　上野 明美
8回	2月20日（月）	エンゼルメーク（ケア）	師　長　上野 明美
9回	3月21日（火）	看取りについて　クリティカルパス説明	看護師　井福 明美

臨床研修医挨拶

今年の４月から７月までの４ヶ月間というとても短い期間でしたが、人吉医療センターでの研修を終えることとなりました。あっという間に過ぎ去っていきましたが、先生方・スタッフの皆様に支えられ、とても楽しく充実した日々を送ることができました。

私はもともと地域医療や総合診療に興味を持っていましたが、実際に地域医療を実践している様子を目の当たりにし、さらに興味を持つようになりました。最も驚いたのは連携という点で、各科同士の垣根も低く、看護師はもちろん、薬剤部や栄養科、リハビリ科など他の職種との連携もスムーズで、さらには地域の病院や福祉施設などとの連携もしっかりしており、とても素晴らしいと感じました。私は総合診療部で４ヶ月間お世話になりましたが、総合診療ならではの幅広い疾患を診ることができ、毎日頭を悩ませながらも、指導医の先生とともに議論し考えることが楽しく感じるようになりました。

残りの研修期間は人吉医療センターより規模の小さい地域の病院で研修する予定で、また別の角度から地域医療を学びたいと思っています。来年からは総合診療専門医になるための後期研修を行う予定です。もともと多良木町の出身で将来的に人吉・球磨で働こうと考えておりますので、また一緒に働く機会がありましたら、その際は何卒宜しくお願い致します。４ヶ月間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

協力型臨床研修医　松田　圭史

特別臨床実習感想

今回、産婦人科におけるクリニカルクラークシップの学外実習として、人吉医療センターの産婦人科にて、３日間の実習をさせて頂きました。私は地域医療に強い興味があり、また、地方における産婦人科医療の現状を知りたいという思いから、人吉医療センターでの実習を希望致しました。

３日間という短い間でしたが、多数の外来診察、３件の手術、２件のお産に立ち会い、非常に充実した時間を過ごすことが出来ました。特に、２件のお産に立ち会うことが出来たのは幸運でした。生命の神秘を実感するとともに、産婦人科医療の大きな魅力の１つを認識し、強く印象に残りました。診察や手術の際には、いくつか手技をやらせて頂き、大変勉強になりました。学生の間は、なかなか手技をさせて頂く機会がないため、貴重な体験となりました。また、今回の実習を通して、人吉医療センターでは、どのような患者さんが多いのか、どのような能力が医師に求められるのか、ということを自分の目で見て知ることが出来たのは、とても大きな学びとなりました。

産婦人科の先生方や、研修医の先生方、多くの医療スタッフの方々には、本当に親切にして頂き、３日間の実習を楽しく有意義に過ごすことが出来ました。医学的な面での学びを得ただけでなく、人吉市の特色や、そこに住む方々の温かさを知り、地域医療の魅力を改めて強く感じました。

今回の実習でお世話になった方々に、心より感謝申し上げます。

熊本大学医学部医学科６年　的場　祐二

私は３週間、人吉医療センターにて地域医療実習をさせていただきました。実習先の候補は６つありましたが、その中から貴院を選ばせていただいたのは、人吉が大学病院のある熊本市から遠く離れており、かつ鉄道線で結ばれていたからです。実習初日の朝、列車から眺めた球磨川の景色は格別でした。

人吉での実習が始まってまず感じたのは、皆さんがよく挨拶をされていることです。挨拶をしても返ってこないことが少なくない大学病院とは大違いで、非常に気持ちよく実習することができました。

院内では多くの研修医の先生方が働かれていて、研修医となる前後のことについて色々なお話を聞くことができ、不勉強な自分にも漸く学習意欲が湧いて参りました。

実習は回診、外来陪席、救急外来見学等の院内実習と、訪問看護、訪問診療、五木村診療所等の院外実習とから成り、双方とも多過ぎず少な過ぎずで、非常にバランスが取れていると感じました。

人吉医療センターでは救急搬送の受け入れが多く、COPD の急性増悪や、急性心筋梗塞、急性喉頭蓋炎疑いなど、様々な症例を目にすることができ、大変勉強になりました。宮崎の西米良や鹿児島の伊佐などからの搬送もあり、人吉・球磨のみならず、隣県の一部地域を含んだ広い地域の医療を担っていることを実感しました。

実習時間外では、温泉に入らせていただいたり美味しいお食事をご馳走になったりと、人吉を満喫することができました。お陰様で非常に充実した３週間となりました。感謝致します。

熊本大学医学部医学科６年　蓑田　理彦

救急救命士就業前実習を終えて

今回病院実習を受け入れて頂く中で、メインテーマを『傷病者の「状態」を判断することが出来る力を身につける』とし傷病者の状態から緊急性の有無を判断し必要な処置を正しく判断できるようになるということを自分自身の中で持ち実習に取り組んで参りました。

その中で、医療人としての自覚を持った方々と接することにより、自分の勉強不足と努力の足りなさを実感でき、勉強して実戦で活かせる技術・知識・考える力を身につけなければならないと強く感じました。

毎日の実習で「PDCA サイクル」を実行することにより、実際に考えて実行したこと、実際に実行した事実に対して俯瞰的視点で考え自分を評価し、足りなかったところ・改善点を見出し、現場にどのように活かしつなげていくかを頭の中で組み立てて考えられるようになった事を日に日に実感するようになり、また実習初日から実習終了までの記録表をみかえすことでもそれは実感できました。これも素晴らしい医師・看護師・医療スタッフと医療センターを受診された患者さんとの出会いが私自身を成長させて頂いたと感じています。

２０日間の実習の中で私のために自分の時間をさいていただいた教育担当者の方をはじめ、医師、看護師、医療スタッフの方々には振り返り・実技指導・質疑等・他にも数多くの事を熱心にご指導いただき深く感謝いたします。

救急外来・オペ室・ＩＣＵ・小児外来・中央材料室・各病棟での経験をしっかり活かし日々の業務に邁進していきます。２０日間本当にありがとうございました。

人吉下球磨消防組合　救急課　今溝　貴仁

ひまわり会研修会開催！

当院外科の西村卓祐先生を講師に迎え、「乳癌診断と治療について」をテーマに、6月27日　ひまわり会研修会を開催しました。

雨にも負けず研修会に参加された患者さん達は、「癌の診断から治療について」の西村先生の話を熱心に聴かれ、『専門的な話で患者さんには難しいのではないか？』というスタッフの心配は杞憂に終わりました。

鬼嫁でおなじみのタレント北斗晶さんが、乳がんに罹患していることを公表された記憶もまだ新しいうちに、今度はタレントの小林真央さんも若くして乳がん治療を受けておられるというニュースが報道された影響もあってか、患者さんの中にはご自身の状態と比較し、不安に思われている方も見受けられました。

一括りに乳がんといっても、その性質は多様であり、患者さんの年齢やステージによっても選択する治療方法や経過は異なります。インターネットや雑誌の情報は非常に有効ですが、なかには極端で偏った情報もあります。患者さんには、医療機関の職員や研修会などの機会を上手に利用していただき、不安を一つでも取り去さって、高い QOL（Quality of Life）で日々を過ごして頂けるように、これからも治療や生活に役立つ研修会を開催していきたいと思います。

次回のひまわり会は8月22日を予定しています。多くのご参加をお待ちしています。

医療福祉連携室　岡本　理恵

医療安全院内研修会

6月22日から24日の3日間に医療安全院内研修会（同内容で3日間開催）が行われました。講師の当院医療安全管理室　永井さんよりは「近年当院で経験したハイリスクインシデント（＊）事例」として5事例の報告がありました。私たちは患者さんに安心で安全な医療を提供するように心掛けていますが、残念ながらインシデント事例が起きてしまいます。事例が発生した時、「誰が」起こしたかではなく、「何が」事故を招いたかという視点で予防策や再発防止策を考えるようにとのことです。また、重大事例（医療事故）の背後には300件ぐらいのインシデント事例が発生しているとのことです。重大事例を起こさない為にも日頃からインシデント事例を共有し、予防や再発防止に取り組まなければなりません。

今回の研修会では、実際の院内発生事例や未然に防いだ事例を共有したことにより、医療安全についてスタッフ一人ひとりがより真剣に考え直すきっかけになったと思います。また、意識や行動変容のきっかけにもなり、安心・安全な医療の提供のために必要なことを再確認できた医療安全の研修会になったと思います。

西棟５Ｆ病棟　藤吉　玲奈

＊ハイリスクインシデント
インシデントとは、日常診療の現場で“ヒヤリ”としたり“ハッ”としたりした事例で比較的患者さんへの影響が軽症なもの。ハイリスクインシデントとは、軽症事例であるが医療有害事象（医療事故）になり得る可能性がある事例のこと。

天使の知恵袋 in 福島保育園

6月29日　福島保育園にて天使の知恵袋が行われました。毎年出前講座にお申込みいただき、今年は24名の参加がありました。

今回は「発熱・痙攣・下痢・嘔吐についての講演」「AED講習・実践」を行いました。

講演では、小児科の谷口医師より「小児の急な発熱や痙攣などを起こした時の処置や観察のポイント」についてお話がありました。

続いての AED 講習では小グループに分かれ、医師や看護師より直接指導を行うため疑問に感じたことをその場で確認することができ「今までに何度かした事はあるけれど忘れてしまっていた」「身体が水で濡れている時はどうすればいいのか」など様々な会話が聞こえてきました。

谷口医師

1時間という限られた時間でしたが、少しでも参加いただいた皆様のお役に立つことが出来たならば幸いです。

受講者より感想を頂きましたので、以下に掲載させて頂きます。

・昨日は救急法で色んな知識を学べて良かったと思います。発熱した際、けいれんならタオルなどを口に入れると思っていたのですが、昨日参加して誤った知識ということも分かりました。これからの子育てに役立てていきたいと思います。最近は色々お手伝いすると言って、お兄ちゃんになってきている証拠なので引き続き色々やらせていきたいです。

・園内でのAEDの研修、大変興味深いものでした。解りやすい説明であり、今後役に立ちそうに思いました。またほかのことについても是非参加したいと思います。

医療福祉連携室　小田　薫子

いのち輝く未来のための講演会

6月30日人吉市立第三中学校に当院の宮川智美助産師、小﨑麗子助産師が講師として招かれ、「いのち輝く未来のために～かけがえのないあなたと私～」という演題で講演をおこないました。

「助産師という職業を選択したきっかけ」、「妊娠、出産の奇跡」、「性感染症について」など、45分という短い時間ではありましたが幅広いテーマについてお話させていただき、10Kg程度の重りをつけた妊婦体験や、新生児人形の抱っこ体験など実際に生徒さんに体験してもらい、より具体的にイメージを持ってもらう試みも行いました。

生徒さんから、講演の感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今日の講話を聞いて、自分は選ばれて生まれてきたので、命を大切にしていき、痛い思いをして生んでくれた親にしっかり感謝しようと思いました。また、お腹に赤ちゃんがいる人はとても大変な思いをしているということが分かったので、そういう人を見かけたら席を譲ったりなど、しっかりサポートしようと思いました。今日学んだことをこれからの生活に生かしていきたいです。

人吉市立第三中学校　３年生

あなたの骨は大丈夫？

骨粗しょう症は骨がもろくなってしまい、ちょっと転んだりしりもちをついただけで背骨の骨や太ももの付け根の骨が折れてしまうことがある怖い病気です。高齢の男性にも見られますが、主に閉経後の女性に見られる病気です。
高齢の女性に背骨が曲がっている人がいますが多くは骨粗しょう症が原因であると考えられます。

今回、下記の日程で骨粗しょう症教室を開催いたします。
どなたでも参加できますので、是非足をお運びください。

日　時：平成２８年８月２０日（土）
時　間：１４:００～(受付１３:４５～)
場　所：人吉医療センター３Ｆ講堂
テーマ：「骨粗しょう症の診断、いつ治療を始めるか」
講　師：産婦人科　星原孝幸先生

新任紹介

石原（いしはら）　旭（あさひ）（基幹型臨床研修医）
最終卒業校：長崎大学
趣味：ロードバイク
モットー：家族、友達を大切にする
自分の性格：マイペース
自分のコマーシャル：熊本市民病院で研修をしておりましたが、4月の震災のため今後の研修困難となり、7月から人吉医療センターで研修をする事となりました。これから9カ月間よろしくお願いします。

宮本（みやもと）　茜（あかね）（看護師）
最終卒業校：名古屋市医師会看護専門学校
趣味：ショッピング
自分の性格：人見知りでネガティブですが、笑顔を忘れず頑張ります。
自分のコマーシャル：笑顔を絶やさず一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。

高橋（たかはし）　沙季（さき）（病棟クラーク）
最終卒業校：熊本県立球磨商業高等学校
趣味：よさこい
モットー：常に笑顔で
好きな言葉：ありがとう
長所：気配りが出来るところ
短所：心配性な所
自分のコマーシャル：体力には自信がありますので、よろしくお願いします。

貴田（きだ）　祐代（さちよ）（医療クラーク）
最終卒業校：熊本県立球磨商業高等学校
趣味：ミニバレー
好きな言葉：万里一空
自分の性格：せっかちな所があるので、気を付けて仕事に取り組みたいと思います。
自分のコマーシャル：とにかくせかせかしている所があるので、仕事は慎重にと心掛けて頑張りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

樋口（ひぐち）　真規子（まきこ）（医療クラーク）
最終卒業校：中村学園大学
趣味：映画鑑賞
モットー：笑顔を忘れず！！
自分の性格：几帳面、人見知り
自分のコマーシャル：出産、育児を経て4年ぶりの社会復帰です。分からない事ばかりでご迷惑をお掛けしますが、精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

７月の勉強会報告

７月１３日(水)第９回心血管疾患医療連携カンファレンス
「心疾患地域連携パスについて」
当院　医療福祉連携室　金栗　由佳 社会福祉士
「当院心リハ室の取り組みと今後の課題」
当院　中矢野　幸代子
心臓リハビリテーション指導士
「歯周病と動脈硬化」
当院　循環器内科　花岡　洋右先生

７月２５日(月)第８８回消化器カンファレンス
「虫垂炎に対するinterval appendectomyについて」
当院　外科　岡留　一雄先生
「胃GISTの２例」
当院　消化器内科　西村　淳先生

７月２９日(金)人吉･球磨地区　がん免疫講演会
「肺がんの早期発見と治療のポイント」
熊本大学大学院生命科学研究部　呼吸器内科学　教授
興梠　博次先生

発行／独立行政法人地域医療機能推進機構 人吉医療センター　題字／「翔」吉村伯舟　初刊／昭和47年9月　印刷／(有)ソーゴーグラフィックス
TEL0966-22-2191･FAX0966-24-2116　URL http://hitoyoshi.jcho.go.jp/　E-mail main@hitoyoshi.jcho.go.jp
E-mail　URL